資料７－１

神田川流域河川整備計画（変更原案）
説明資料

令和８年７月14日

目　次

1　流域及び河川の概要

・　神田川流域の概要

2　河川整備の現状と課題

（１）過去の水害発生状況

（２）河川の整備状況

3　河川整備計画の目標及び実施に関する事項

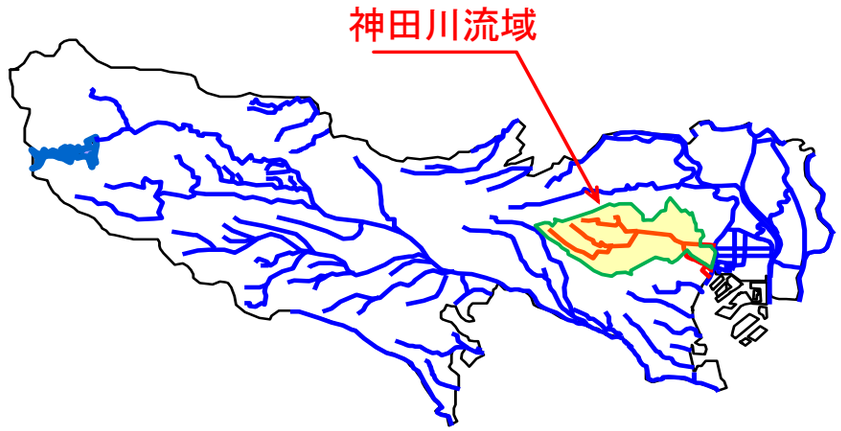
・　洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

4　パブリックコメントの実施結果

1　流域及び河川の概要　－神田川流域の概要－

- 流域面積　約 105 km^2
- 幹川流路延長　約 24.6 km
- 水源：東京都三鷹市（井の頭池）
- 支川：善福寺川、妙正寺川、江古田川
- 派川：日本橋川、亀島川
- 流域区市：１３区２市
  （千代田区,中央区,新宿区,文京区,台東区,世田谷区,
  渋谷区,中野区,杉並区,豊島区,北区,荒川区,練馬区,
  武蔵野市,三鷹市）

案内図





2　河川整備の現状と課題　（１）過去の水害発生状況

＜神田川流域の主要水害記録＞

月日	洪水要因	浸水面積	浸水棟数（棟）			降雨記録		
			床下	床上	合計	観測所名	時間最大雨量(mm)	日雨量(mm)
S33. 9. 26	狩野川台風	1, 194. 0	19, 962	18, 394	38, 356	東京	76. 0	371. 9
S38. 8. 1	集中豪雨	363. 0	7, 327	2, 129	9, 456	豊島	43. 0	78. 5
S41. 6. 28	台風４号	403. 2	5, 836	3, 339	9, 175	中野	30. 0	175. 5
S49. 7. 20	集中豪雨	57. 6	800	749	1, 549	中野	51. 0	111. 5
S53. 4. 6	集中豪雨	120. 6	1, 432	1, 311	2, 743	中新井	62. 0	100. 0
S54. 5. 15	集中豪雨	62. 4	640	904	1, 544	善福寺川	39. 0	114. 0
S56. 7. 22	集中豪雨	188. 7	4, 073	1, 624	5, 697	東京	77. 0	81. 0
S56. 10. 22	台風24号	214. 5	2, 757	2, 182	4, 939	丸の内	47. 0	210. 0
S57. 6. 20	集中豪雨	90. 6	761	319	1, 080	東京	52. 5	60. 5
S57. 9. 12	台風18号	285. 5	1, 913	3, 943	5, 856	久我山	56. 0	167. 0
S57. 11. 30	集中豪雨	115. 6	1, 382	587	1, 969	新宿	50. 0	82. 0
S58. 6. 10	集中豪雨	105. 7	2, 199	233	2, 432	豊島	29. 0	30. 0
S60. 7. 14	集中豪雨	70. 7	1, 003	455	1, 458	久我山	62. 0	65. 0
S62. 7. 25	雷雨	41. 4	1, 598	249	1, 847	中野	73. 0	82. 0
S62. 7. 31	雷雨	39. 5	1, 130	258	1, 388	豊島	60. 0	60. 0
H1. 8. 1	大雨（雷雨）	51. 8	1, 550	1, 119	2, 669	中野	70. 0	203. 0
H3. 9. 18～20	台風18号	28. 5	870	197	1, 067	新宿	44. 0	141. 0
H5. 8. 27	台風11号	117. 1	3, 271	1, 435	4, 706	弥生町	47. 0	195. 0
H17. 9. 4～5	集中豪雨	125. 9	1, 265	2, 236	3, 591	下井草	112. 0	251. 0

注）昭和49年以降は、神田川流域において1,000棟以上浸水被害があったものを表示



平成5年8月台風11号
（神田川高砂橋付近）



昭和56年7月神田川神高橋付近



平成17年9月妙正寺川天神橋

2　河川整備の現状と課題　（２）河川の整備状況

〔河川の整備状況〕 洪水対策

・1時間あたり50mmの降雨に対応する河道の護岸整備は、神田川で約９割、
　妙正寺川で約５割、善福寺川で約６割の進捗



神田川　本郷橋付近

〔調節池の整備状況〕 洪水対策

10調節池が完成、４調節池が事業中

・下高井戸調節池（事業中）
・環状七号線地下広域調節池（事業中）
・善福寺川上流地下調節池（事業中）
・妙正寺川上流調節池（仮称）（事業中）



和田堀公園調節池（上部は公園利用）

2　河川整備の現状と課題　（２）河川の整備状況

〔河川の整備状況〕 **高潮対策**

・伊勢湾台風級の高潮に対応する防潮堤等の整備を進めている

　神田川はほぼ対応できる堤防高となっているほか、日本橋川で約９割、亀島川で約８割完了

・また、一部区間で耐震対策を進めている



神田川　万世橋付近



日本橋川　日本橋付近

〔水門の整備状況〕 **高潮対策**

・日本橋水門、亀島川水門を整備し、運用
・現在は、耐震・耐水対策を実施中



日本橋水門（耐震対策実施中）

3　河川整備計画の目標及び実施に関する事項

・洪水、津波、高潮等による
災害の発生の防止又は軽減

①河道拡幅、河床掘削、自然環境に配慮した整備

②調節池の整備

③地下河川の整備

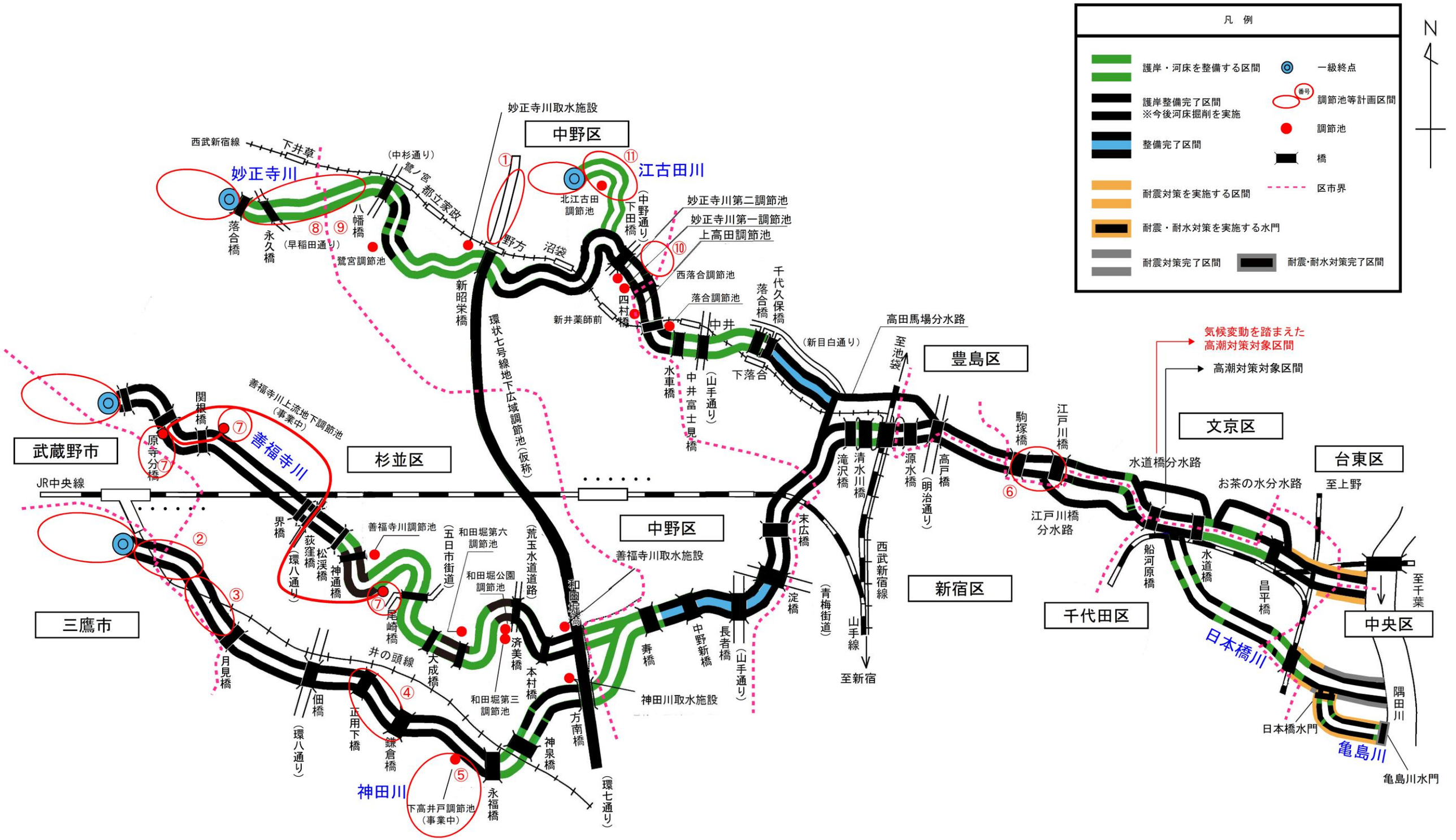
④防潮堤等の整備

⑤耐震対策

3　河川整備計画の目標及び実施に関する事項

－洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減－

●神田川流域 河川整備箇所図

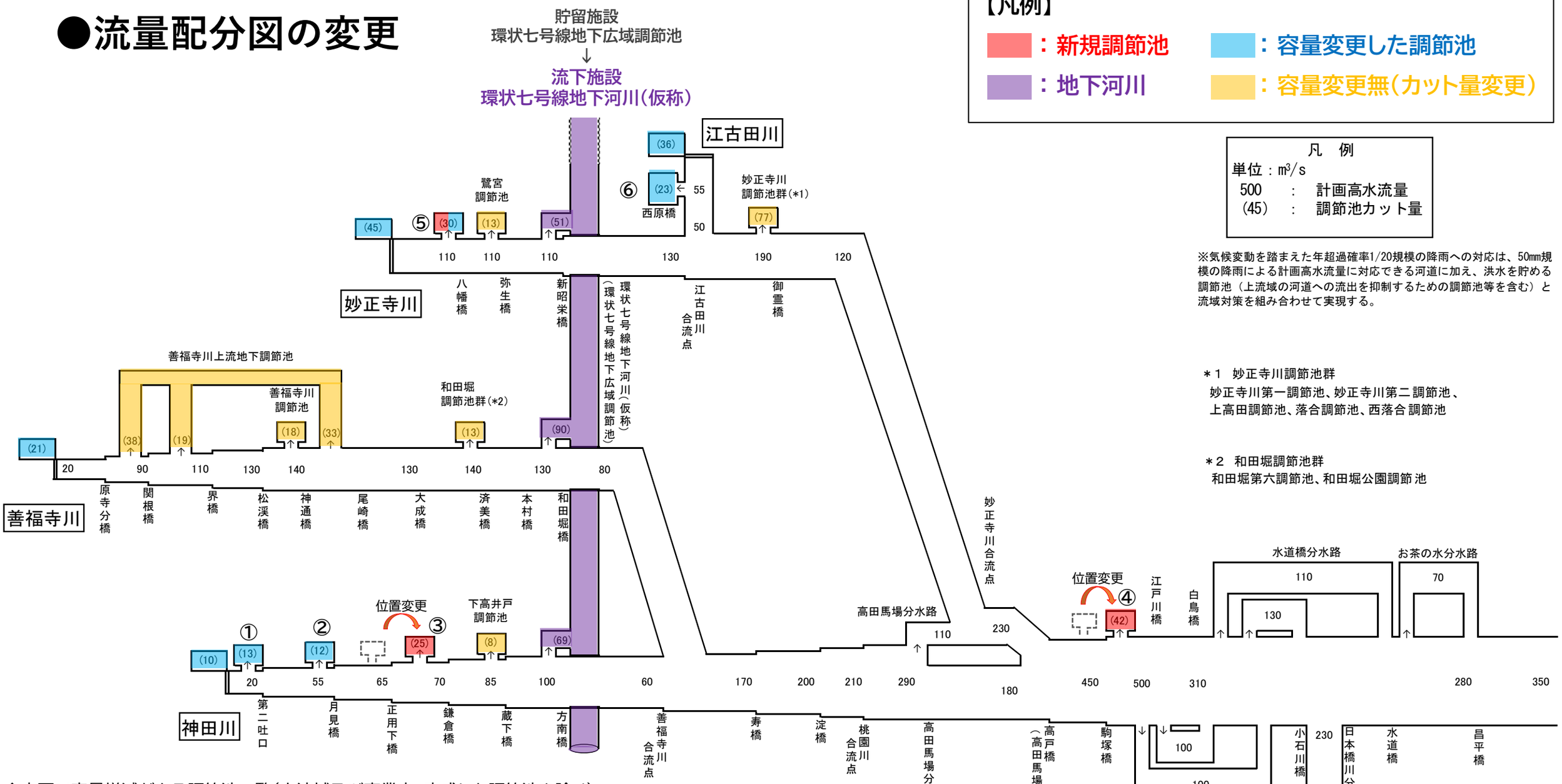


3　河川整備計画の目標及び実施に関する事項

－洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減－

■調節池の整備・地下河川の整備

●流量配分図の変更



【凡例】

■：新規調節池　■：容量変更した調節池

■：地下河川　■：容量変更無（カット量変更）

凡　例
単位：㎥/s
500　：　計画高水流量
（45）　：　調節池カット量

※気候変動を踏まえた年超過確率1/20規模の降雨への対応は、50㎜規模の降雨による計画高水流量に対応できる河道に加え、洪水を貯める調節池（上流域の河道への流出を抑制するための調節池等を含む）と流域対策を組み合わせて実現する。

＊1　妙正寺川調節池群
妙正寺川第一調節池、妙正寺川第二調節池、
上高田調節池、落合調節池、西落合 調節池

＊2　和田堀調節池群
和田堀第六調節池、和田堀公園調節 池

◆変更で容量増減がある調節池一覧（上流域及び事業中、完成した調節池を除く）

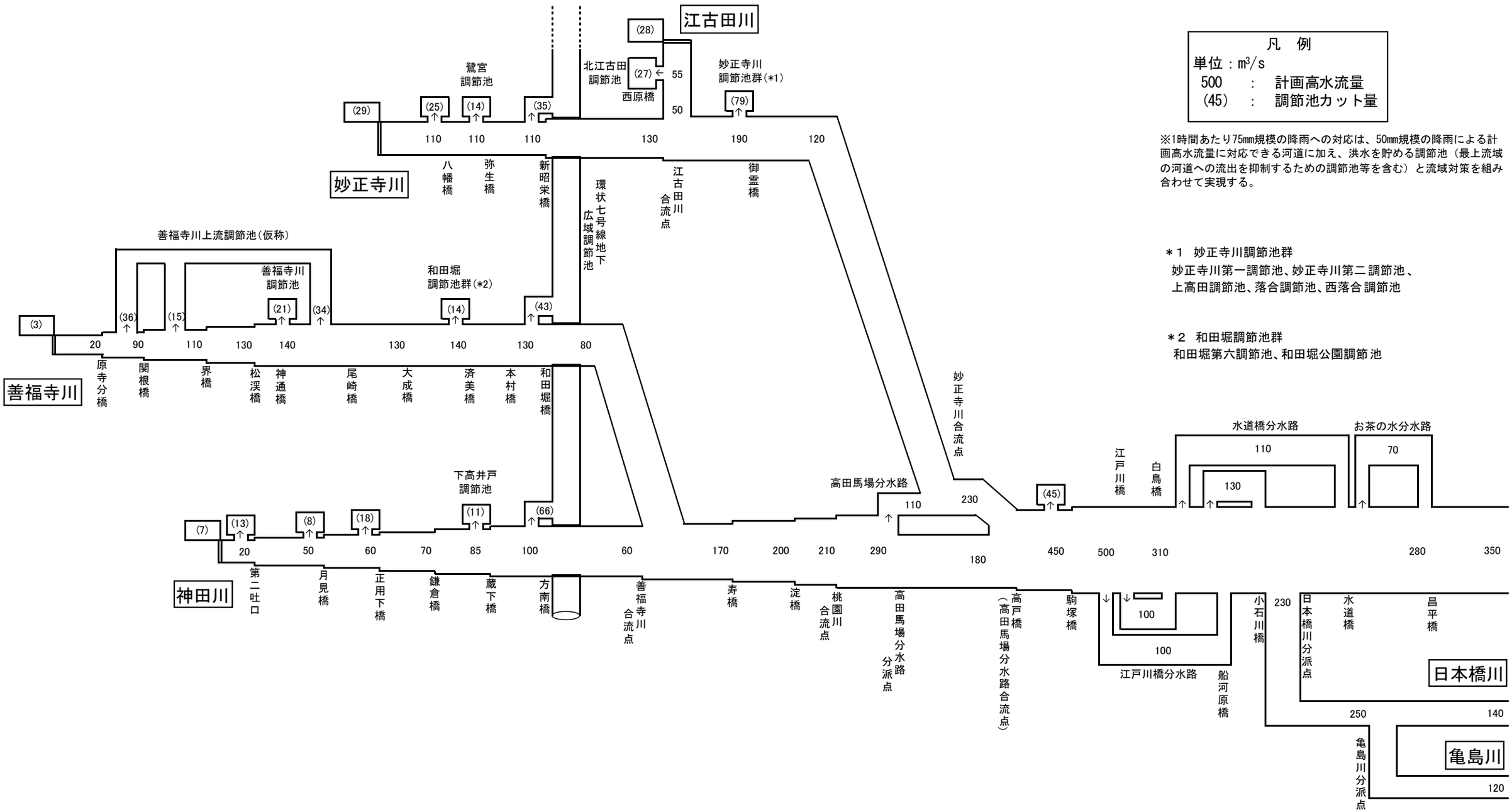
河川	番号	調節池容量（予定）	備考
神田川	①	約52,000 m³	前回：50,000㎥（＋約0.2万㎥）
	②	約36,000 m³	前回：22,000㎥（＋約1万㎥）
	③	約101,000 m³	前回：62,000㎥（＋約4万㎥）【位置変更】
	④	約307,000 m³	前回：309,000㎥（－約0.2万㎥）【位置変更】
妙正寺川	⑤	約107,000m³	前回：68,000㎥（＋約4万㎥※）※増量分は新規調節池で対応
江古田川	⑥	約45,000m³	前回：68,000㎥（－約2万㎥）

［※ 配置場所等の施設計画は、今後検討、調整］

3　河川整備計画の目標及び実施に関する事項

－洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減－

【参考】流量配分図（現行計画）



※1時間あたり75㎜規模の降雨への対応は、50㎜規模の降雨による計画高水流量に対応できる河道に加え、洪水を貯める調節池（最上流域の河道への流出を抑制するための調節池等を含む）と流域対策を組み合わせて実現する。

＊1　妙正寺川調節池群
妙正寺川第一調節池、妙正寺川第二調節池、
上高田調節池、落合調節池、西落合調節池

＊2　和田堀調節池群
和田堀第六調節池、和田堀公園調節池

3　河川整備計画の目標及び実施に関する事項

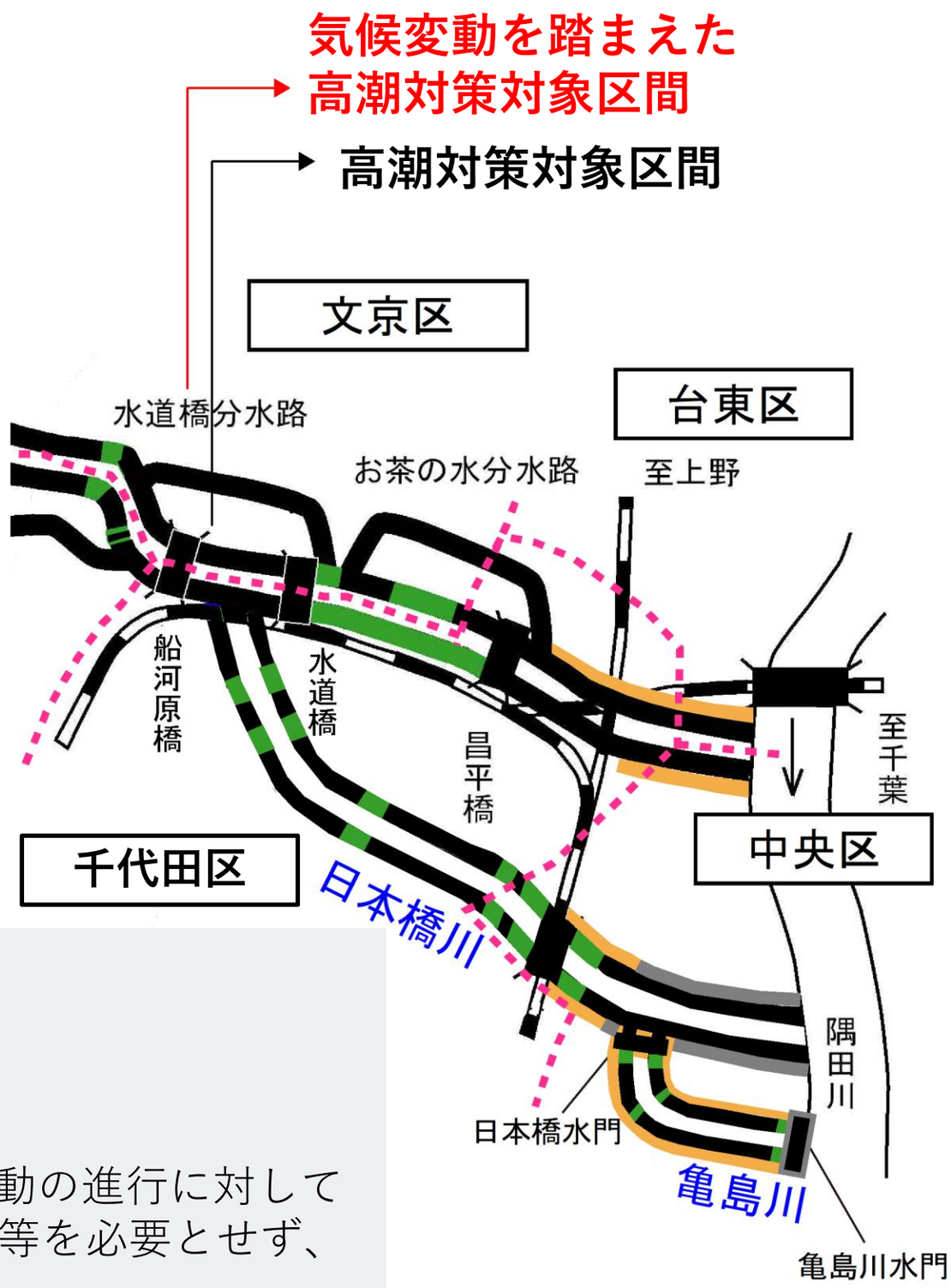
－洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減－

■防潮堤等の整備

◆気候変動を踏まえた高潮対策対象区間の変更

（変更前）
隅田川合流点から**日本橋川分派点**まで

（変更後）
隅田川合流点から**船河原橋下流**まで



◆気候変動を踏まえた計画高潮位の変更

（変更前）　A.P.+5.1m

（変更後）　**A.P.+5.7m　（＋0.6m）**

◆気候変動を踏まえた整備内容の変更

今回改定では変更なし（※）

※既に整備が完了した防潮堤等は、現在の気候変動の進行に対して本計画の対象期間内（概ね30年間）では嵩上げ等を必要とせず、現在の施設で対応できる見込みのため

4　パブリックコメントの実施結果

＜意見聴取の実施概要＞

- 実施期間 ： 令和８年５月１５日～６月１５日（４週間）
- 実施方法 ： 変更原案の公表、リーフレットの配布
- 実施場所 ： 都庁河川部、都・建設事務所（６箇所）、流域区市（１５区市）、都HP
  ※都広報誌等への掲載、HPでの情報提供により周知

＜提出意見（総括）＞

- 洪水対策に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14件
- 実施中の事業に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41件
- 河川環境に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３件
- 河川の利用・維持に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３件
- 地域や関係機関との連携に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１件
- その他　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6件

合計68件

4　パブリックコメントの実施結果

寄せられたご意見等とそれに関する東京都の考え方（抜粋）

主な意見等	考え方（案）
◆洪水対策に関すること	
台風時の急激な河川増水を体験し、都市河川の危険性を実感して、河川の拡幅や掘削、貯留機能強化など物理的対策が必要であると認識した。	本計画では、気候変動により激甚化・頻発化する豪雨に対応するため、河道整備や調節池の整備等を実施していきます。
国のグリーンインフラ施策も踏まえ、他部局連携と住民協働による総合的な計画策定を求める。また下水道との連携、下水道の分流化、雨水浸透施設の普及等を強力に推し進めて欲しい。	「東京都豪雨対策基本方針（改定）」では、河川における洪水対策、下水道による浸水対策や雨水貯留・浸透施設等の流域対策などを組み合わせて気候変動により激甚化・頻発化する豪雨に対応していくこととしており、本計画においても位置付けています。
洪水対策として「調節池の整備」や「地下河川の整備」がメインになっており、ハードな対策に偏っている。既設調節池の運用改善やソフト対策の強化、関係機関との連携が必要である。	本計画では、ハード対策と合わせて、ソフト対策も推進することとしています。ソフト対策では、雨量や河川水位の情報を東京都水防災総合情報システムで提供するとともに、YouTube による河川監視カメラ映像をリアルタイムで配信しています。また調節池等の水害抑制効果についてもHPで公表しています。

4　パブリックコメントの実施結果

寄せられたご意見等とそれに関する東京都の考え方（抜粋）

主な意見等	考え方（案）
◆実施中の事業に関すること	
環状七号線地下調節池は、上流の水位も抑えるものであり、善福寺川上流地下調節池について不要である。	調節池は、洪水時に調節池の下流側の流量を減らし、河川の水位上昇を抑え、洪水を安全に流下させることができる施設です。神田川流域全体の水害に対する安全性を高めるためには、神田川・環状七号線地下調節池などに加え、善福寺川上流地下調節池の整備も必要となります。
善福寺川上流地下調節池のように長期間・巨額の費用のかかるものではなく、グリーンインフラを進めていくべきである。	グリーンインフラは、雨水流出の抑制が期待され、河川や下水道の負荷を軽減できることから、都でも導入を推進しています。一方で、グリーンインフラを含む雨水流出抑制対策のみでは、激甚化、頻発化する豪雨に対し限りがあるため、河道や調節池整備等の河川事業などを進めていくことが重要です。
善福寺川上流地下調節池について、環境を破壊する事業であり、環境への配慮が足りていない。	自然環境や生態系へ配慮するとともに、事業実施にあたっては、関係法令等に基づき環境影響の低減に努めていきます。
善福寺川上流地下調節池について、反対意見ばかりが取り上げられ、行政が示す事実情報が十分に伝わっていない現状は残念である。グリーンインフラには限界があり、豪雨時には十分な効果が期待しにくいことから、河道整備や調節池整備を基軸とした対策の重要性を、データに基づき明確に示すべきである。	本計画では、気候変動に対応する河川施設として、河道整備や調節池等の整備を行うこととしています。また、HPでは観測した水位データなどを用いて調節池等の水害抑制効果についても公表しています。

4　パブリックコメントの実施結果

寄せられたご意見等とそれに関する東京都の考え方（抜粋）

主な意見等	考え方（案）
◆河川環境に関すること	
樹木伐採や大規模工事が緑地の減少やヒートアイランド現象の進行、CO_2排出の増加につながり、気候変動対策や住環境の保全に逆行する。将来世代に良好な環境を残すため、計画を見直し、緑地保全や自然と共生するまちづくりを重視すべきである。	事業実施にあたっては、自然環境や生態系へ配慮するとともに、関係法令等に基づき環境影響の低減に努めていきます。
◆河川の利用・維持に関すること	
近年の豪雨増加を踏まえ治水対策を進めていることに感謝する。河川整備の重要性は高まっていると感じている。今後は防災機能だけでなく水と人が親しめる河川空間の整備を重視してほしい。	河川管理用通路や護岸等について、河川管理や治水安全性との整合を図りながら、動植物の生態系や景観に配慮して、可能な範囲で緑化や修景を行います。また、護岸や調節池の整備にあわせて、可能な箇所において関係機関と連携し、公園等のオープンスペースとの一体整備により、河川空間の親水化を図ります。
◆その他	
計画遂行に様々な意見がある思うが、地域の安全のため難しい課題への取組に感謝する。 氾濫を経験しており、氾濫時の生活の影響、氾濫後修繕、衛生復旧の重要性を体験している。 氾濫域にお住まいの住民の皆さんのためには重要な整備事業であり、環七地下調節池同様長期間にわたる工事になるからこそ、１日も早い着工が望まれる。	本計画に基づき、河川施設の整備を着実に進めていきます。